

6-3. 比喩（植物）

〈マタイによる福音書 13 : 24〉 p.21

…譬で群衆に語られた。

〈ヨハネによる福音書 12~13、25〉 p.168

真理の御霊（＝キリスト）が来ると、たとえが解き明かされる。イエスは 3 年半で十字架にかけられたので、全ては解ききれなかった。

『草』

〈イザヤ書 40 : 6~8〉 p.996

人はみな草だ。

草は太陽が照ると枯れ、風でたおれる。肉的な人生は一瞬に終わるが、御言葉は永遠。

〈列王紀下 19 : 26〉 p.552

野の草のようになり…。

人はすぐ死んでしまうもの。

〈ペテロ第一の手紙 1 : 24~25〉 p.367

人の栄華は草のように儂いが、御言葉はとこしえに残る。

〈詩篇 90 : 5〉 p.829

人生は一夜の夢のようだから、どう生きるかが重要。

〈詩篇 72 : 16〉 p.810

霊の世界は永遠。ソロモンは栄華を誇ったが、伝道の書であるように、肉的な生活は空だといった。空虚だといわれる草の人生の間、もいきいきと生きられるのが御言葉。

『ぶどう』

〈マタイによる福音書 21 : 33~44〉 p.35

主人＝神様 僕＝預言者 息子＝イエス 耕す農夫＝イスラエル民族

〈ヨハネによる福音書 15 : 1~8〉 p.166

ぶどうの木＝キリスト 枝＝御言葉についていく人々 手入れする主人＝神様 実＝行い

地球全体が一つのぶどう園

ぶどうは実をたくさんならせる。生産量 No.1。しかし木につながっていないと養分をもらえないため、実を結べない。実を結ばない枝は役に立たないから焼かれる。天とつながっていると実を結べる。イスラエル民族は身を結ばなかったから、異邦人に移された。

〈エゼキエル書 15 : 1~6〉 p.1166

ぶどうの枝は太くも硬くもないのでそれだけでは役に立たない。

〈ガラテヤ人への手紙 5 : 22~23〉 p.299

御霊の実＝愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制

〈エレミヤ書 17 : 10〉 p.1076

神様は行いの実によって報いる

〈イザヤ書 5 : 1~7〉 p.947

イスラエル民族を象徴した比喩。神様がイスラエルというぶどう園を手入れしたが、結んだのは酸っぱくて苦くてまずい、野ぶどうだった。神様が愛して育てたのに、憎み、争い、偶像崇拜した。

テモテへの第二の手紙 2 : 20~21

尊い清められた器は主人に使われる。御言葉の肥料で行いの実を結べば使われる。

『畑』

〈ホセア書 10 : 12〉 p.1255

御言葉をもってあなたがたの新田を耕せ。新田＝心

〈伝道の書 12 : 1~2〉 p.932

若いうちに畑を耕せ。

〈マタイによる福音書 13 : 3~9〉 p.20

種まきの譬。

〈マタイによる福音書 13 : 18~23〉 p.20

種まきの譬の解釈。

道ばたに落ちた種＝御言葉を聞いても悟らない

石地にまかれた種＝根がないため弱く、すぐ困難につまずく
いばらの中にまかれた種＝世の心づかいと富の惑わしとが御言葉をふさぎ、実を結ばない
良い地にまかれた種＝御言葉を聞いて悟り、実を結ぶ
畑を耕してもほっておくと雑草が生えてくる。だから御言葉で手入れしないといけない。

〈マタイによる福音書 13 : 44〉 p.21

ここでは畑＝イスラエル民族 宝＝イエスの持つ真理の御言葉
すべて売り払うだけの価値がある。畑を耕さないと宝は出てこない。

『いとすぎ』

〈イザヤ書 55 : 13〉 p.1025

〈ホセア書 14 : 8〉 p.1259

常緑樹でまっすぐに育ち、高く幹が太く、しっかりしていて害虫に強い。高貴、優勢のシンボル。
→いつも神様にまっすぐで変わらない心をもつ。

〈創世記 6 : 14〉 p.7

ノアの箱舟もいとすぎでつくられた。

『いばら』

〈イザヤ書 55 : 12~13〉 p.1025

いばらはトゲのある低木類の総称。花は美しいが、つるが曲がっていて、トゲがある。

→神様に近づくのを妨げる誘惑し、人の心を曲げる。

野にある木は手を打つとあるがありえない。手を打つのは人。

→木＝人

〈創世記 3 : 18〉 p.4

いばらもあざみもとげのある雑草で、他の植物が育つための養分を吸い取る。罪の象徴。

『ミルトスの木（銀梅花）』

白い花をつける常緑樹。抗菌性が高く、成功のシンボル。常緑低木で、葉は光沢があり、強い香りがある。花は白く、梅の花に似ている。果実は食用になる。「祝いの木」「永遠の木」とされ、ユダヤ教徒の間では、ウェディングリースに編み込んだりする。

おどろ…草木やいばらが茂っている状態

『香柏（レバノン杉）』

〈詩篇 92 : 12〉 p.829

芳香があり、腐りにくく、堅く、節がないので極上の建築材料として尊ばれた。成長が早く長生き。高さ 35m、幹 14m、樹齢 2000 年にもなる。

『なつめやし』

〈雅歌 7 : 7〉 p.940

実がたくさんなる。水分が少なくて育つ。栄養価も高い。優美、勝利、祝福のシンボル

→たくさん行い、艱難に耐え、有用。

『オリーブ』

「パレスチナの 7 つの産物」と称されるもののひとつ。果実は食用、油は食・薬用、燃料として、木は木工製品として活用され、捨てるところのない植物。「メシア」は「油注がれた者」という意味だが、この油はオリーブ油と考えられている。